

HDM推進会（第 18回）／ごみゼロネット推進会（第 40回）議事録

開催日： 2011年（H23年）10月 5日（水）10:00～12:05

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、大橋、杉本、加藤、加賀谷、川村、藤原、桐生（作成）

議題：

1. 会の名称変更

現在の名称「HDM推進会」を「生ごみ微生物減量推進会」に変更する。

理由： 1) 広域支援をお願いする当市の立場上、「生ごみ減量により他自治体へのご迷惑を少しでも軽減したい」という活動であることを明確にしたい。

2) HDMを表に出すと、処理装置を発注する段階で見積合わせしない1社指名発注になり、行政上難しい問題が生じることを避けたい。

3) 「生ごみの処理」というと「堆肥化」へ突っ走る人たちがおり、その方向への誘導を防ぐために「減量」の文字を入れたい。

- 「将来的に小金井市は焼却しないごみ処理方式を実施する予定」ということが、広域支援を受け入れる他の自治体にとって極めて痛に障り、広域支援を渋る原因になっている。「自助努力として燃やすごみ絶対量を減らすために行う活動である」ことを明白にして、他の自治体の抵抗感を和らげたい。
- 日量数10トンの微生物処理装置としてはHDM、KUOH、くうたくん業務用等数社しかない。現実に業者選定で残れるのは実績でトップのHDMになるのは確実で、敢えて固有名称に拘る必要はなさそうだ。
- ごみ対策課の中福氏は「生ごみ処理は堆肥化」で凝り固まっている。小金井市民には他にも「堆肥化原理主義者」が何人もおり、その中でもEMを推すもの「EMでは駄目だ」というものが反目しあっており、彼らに掻き回されないように、「減量・減容」であることを明確にしたい。異物が少ないといわれる学校給食の残飯でさえソースや醤油のポリ袋が混入しており、農家は「生ごみ堆肥」を広く受け入れる態勢にない。堆肥化には発酵場が必要で、富士市のように広げればともかく、小金井市のような民家が密集している場所では実行不可能である。小金井市では「生ごみの減量」以外に実行可能な方法はない。
- この議事録には、改名が定着するまでは、従来通り「HDM推進会」の名称を使わせていただく。

2. 生ごみ処理に関する最新情報の提供（加藤）

資料「生ごみは資源です／生ごみリサイクルで創る私たちのこれからは、電力は脱原発、ごみは脱焼却」により説明。以下その要点。

- 浅井民雄氏の講演・その他の情報から紹介：生ごみ資源化に取り組んでいる自治体の事例種26自治体の紹介／廃棄物処理の原則4L／これまで成功した事例の条件自治体の長がやると決めなければ動かない。

一人のやる気の担当がいなければ実現しない！

- 御殿場市は2011/4よりHDMシステム稼働。5ト/日。RDFに莫大な運転費を要し、生ごみを分別して処理量を減らしたいのが動機。将来は市内全域で生ごみ全量収集を目指す。
- 立川市の生ごみ分別・資源化モデル事業（ごみ減量担当主査 鎌田純文氏報告）・・・ごみ減量5ヵ年計画（50%削減）／モデル地区550世帯／自治体が素晴らしい活動をしている／毎月パトロール等
- 小平市の食物循環モデル事業（ごみ減量対策課事業係長 菅家幸樹氏報告）・・・5世帯以上のグループで集積場を設ける。家庭では内袋に生ごみを入れ、それを抗酸化バケツ（テラペール）に入れて保管し、内袋業者が収集し、破袋して生ごみと分離、内袋は「燃やすごみ」となる。

素晴らしい！非常に参考になる収集法。家庭内保管中は全く臭わない。5リットルバケツが適当。

- 「HDM検討会再開を求める陳情書」の原稿提示があり、全員で検討、内容的には全員了承、②③①の順で書くことが望ましいとの意見が大橋氏から出た。
- 全員の希望で御殿場市のHDM施設の見学会を加藤氏にアレンジしていただくことになった。

- 新庁舎建設に絡み、リサイクルセンターの行き先が迷走している。
- 二枚橋の更地化完成はH25/3である。

3. 岡部環境部長との面会報告（平林）

9月16日の午後4時から1時間、新任の岡部部長と面談した。

子育て等の総務部門を遍歴しており、現業を担当するのは初めてとのこと。ごみ処理のことは何も知らないという。佐藤市長が広域支援で苦しい立場にあり、選挙公約であったHDMの実施に力を入れられない事情を背景に、「HDM検討会」に全く熱が入らない態度であった。平林氏は「お互いに電話で話し合える関係を築たい」と要望して別れた。（新任の管理者は何時も「私は何も知りませんので…」と逃げを打つが、何も知らない人が事業の責任者になる役所の人事システムには重大な欠陥があるのでないか！）

加藤氏より平林氏に対し、次回の行政と当会の会議日程を決定することを要望した。「現在は広域支援問題カウントダウン状態なので、来月に入ってもよい」とのこと。

4. 「HDM推進会の進め方への提言」（桐生）

標記資料により説明。1.HDM 推進会の行動記録（上から8番目の●に訂正。「2011/2 は 2011/3」は9回）／2.何故、こんな悠長な展開となったのか／3.行政との「HDM 導入検討会」の進め方（実証試験用地は行政に確保させよ）／4.HDM 推進会の目標の確認／5.プロジェクトの推進速度を上げるための提案（6項目提案：加藤氏の提案と重なる点多い。実証試験は実機に近い装置にしたいPERTで全貌を把握し、進捗管理したい）

5. ごみ対策課より出た問題文書（加藤）

環境部ごみ対策課より、H23/8/9付けで、「ごみ特委員会調査資料」として「生ごみ等の循環型まちづくり推進事業委託（緊急雇用事業）仕様書」の中に、「…予断をもちずに小金井市に有効なごみ減量施策について幅広く検討することとなるため、ごみ減量施策について特定の見解を有している団体等に所属していない人が望ましい。」との文言が入っている。我々のことを言っているようで、不愉快である。

上

以

特記事項：小平市の食物循環モデル事業の収集現場見学会がごみ対策課により開催される。

見学希望者は12月7日、9時半に本庁舎庭に集合のこと。マイクロバスで行く。本日の当会出席者の参加希望を加藤氏より市へ申し込んでいただく。

次回打合せ：11月2日（水）10：00～12：00 コミュニティサロン・はけ



